

■ 本書について

- ◎本書は、過去6年12回分（平成30年10月～令和6年3月）の日本自動車整備振興会連合会（以下、日整連）・登録試験に出題された問題及びその出題ジャンルをもとに、○×または記述式問題を作成し、小テスト形式にしたものです。
- ◎問題の最後には、[R3.3]等の記述があります。これは試験で出題された年月を示し、[R3.3]であれば令和3年3月に実施された登録試験を元に作成した問題となります。また、[H31.3改]と「改」がついているものは、改訂された教科書の記載内容との問題のすり合わせや出題形式の変更など、編集部で手を加えている問題を示し、[追加]は編集部で教科書から作成した問題を示します。
- ◎本書は、下記の日整連発行の教科書別にジャンル分けしています。また、法令問題に関しては、弊社発行の『自動車整備士の法令教本 令和6年（2024年）版』（3月発刊）をご覧ください。

教科書名	発行年
二級ジーゼル自動車 エンジン編	平成14年11月初版
基礎自動車工学	平成30年3月初版
基礎自動車整備作業	平成30年3月初版
二級自動車シャシ 二級ガソリン自動車・二級ジーゼル自動車 シャシ編	平成29年3月初版

- ◎各章の項目の順序は、各教科書の内容の順序（総論⇒エンジン本体…）となっています。授業の進捗具合に合わせてご使用いただけます。
- ◎1ページ表面のみ（裏面は白紙）の小テスト形式です。また、B5サイズよりも若干小さく作成しているため、B5のノートからはみ出ることなく貼り付けることができます。
- ◎弊社発行の自動車整備士シリーズと併せて本書をご使用ください。

◆本書の正誤等について◆

本書の発刊にあたり、記載内容には十分注意を払っておりますが、誤り等が発覚した際は、弊社ホームページに訂正情報を掲載しています。お手数ですが、ご不明な場合は一度ご確認をお願い致します。

https://www.kouronpub.com/book_correction.html



◆本書籍の内容に関するお問い合わせ◆

書籍の内容につきましては、必要事項を明記の上、下記までお問い合わせ下さい。

 メール	PCから 【inquiry@kouronpub.com】 記入必須事項 ・お客様の氏名とフリガナ ・書籍名 ・該当ページ数 ・問合せ内容	問合せフォーム QR  または
	FAX  03-3837-5740	記入必須事項 ・お客様の氏名とフリガナ ・FAX番号（FAXの場合のみ） ・書籍名 ・該当ページ数 ・問合せ内容

※お電話によるお問合せは、受け付けておりません。

※回答までにお時間がかかる場合がございます。ご了承ください。

※必要事項に記載漏れがある場合、問合せにお答えできない場合がございます。ご注意ください。

※お問い合わせは、**書籍の内容に限り**ます。試験の詳細、実施時期等についてはお答えできかねます。

■目次

■解答一覧

■基礎工学 …………… 解答 . 1
 ■基礎整備 …………… 解答 . 1
 ■2級ジーゼル …………… 解答 . 1
 ■2級シャシ …………… 解答 . 3
 ■法令 …………… 解答 . 5

■基礎工学

■第3章 自動車の材料…………… 1
 非鉄金属
 非金属：セラミックス（ガラス）／合成樹脂と複合材
 ■第6章 基礎的な原理・法則 [1] …………… 2
 力のモーメント（重心）／軸重の計算①（※2級シャシ）
 ■第6章 基礎的な原理・法則 [2] …………… 3
 力のモーメント（重心）／軸重の計算②（※2級シャシ）
 ■第6章 基礎的な原理・法則 [3] …………… 4
 仕事とエネルギー
 圧力①
 ■第6章 基礎的な原理・法則 [4] …………… 5
 圧力②
 ■第6章 基礎的な原理・法則 [5] …………… 6
 電気回路①
 ■第6章 基礎的な原理・法則 [6] …………… 7
 電気回路②
 ■第6章 基礎的な原理・法則 [7] …………… 8
 電気回路③
 ■第6章 基礎的な原理・法則 [8] …………… 9
 電気回路④
 ■第6章 基礎的な原理・法則 [9] …………… 10
 電気回路⑤

■基礎整備

■第2章 基礎整備作業…………… 11
 基本作業／測定作業／エンジン点検作業

■2級ジーゼル

■第1章 総論 [1] …………… 12
 バルブ・タイミング①
 ■第1章 総論 [2] …………… 13
 バルブ・タイミング②

■第1章 総論 [3] …………… 14
 性能
 ■第1章 総論 [4] …………… 15
 燃焼過程
 ■第1章 総論 [5] …………… 16
 ジーゼル・ノック
 ■第1章 総論 [6] …………… 17
 排出ガス
 ■第2章 エンジン本体 [1] …………… 18
 ピストン及びピストン・リング
 ■第2章 エンジン本体 [2] …………… 19
 コンロッド及びコンロッド・ベアリング
 ■第2章 エンジン本体 [3] …………… 20
 トーション・ダンパ
 バランサ機構
 ■第2章 エンジン本体 [4] …………… 21
 バルブ機構
 ■第3章 潤滑装置／第4章 冷却装置 [1] …… 22
 潤滑装置
 ファン・クラッチ
 ■第4章 冷却装置 [2] …………… 23
 電動ファン①
 ■第4章 冷却装置 [3] …………… 24
 電動ファン②
 ■第5章 燃料装置：コモンレール式 [1] …… 25
 サプライ・ポンプ①
 ■第5章 燃料装置：コモンレール式 [2] …… 26
 サプライ・ポンプ②
 ■第5章 燃料装置：コモンレール式 [3] …… 27
 コモンレール
 インジェクタ①
 ■第5章 燃料装置：コモンレール式 [4] …… 28
 インジェクタ②
 ■第5章 燃料装置：コモンレール式 [5] …… 29
 センサ①
 ■第5章 燃料装置：コモンレール式 [6] …… 30
 センサ②
 ■第5章 燃料装置：コモンレール式 [7] …… 31
 センサ③
 ECU ①

目次

■第5章 燃料装置：コモンレール式 [8] …… 32 ECU ②	
■第5章 燃料装置：コモンレール式 [9] …… 33 ECU ③ 整備	
■第5章 燃料装置：ユニット・インジェクタ式 [1] …… 34 概要 燃料システム	
■第5章 燃料装置：ユニット・インジェクタ式 [2] …… 35 ユニット・インジェクタ	
■第5章 燃料装置：ユニット・インジェクタ式 [3] …… 36 作動①	
■第5章 燃料装置：ユニット・インジェクタ式 [4] …… 37 作動②	
■第6章 吸排気装置 [1] …… 38 ターボ・チャージャ／インタ・クーラ	
■第6章 吸排気装置 [2] …… 39 排気ガス後処理装置	
■第7章 電気装置 [1] …… 40 半導体：論理回路	
■第7章 電気装置 [2] …… 41 バッテリー	
■第7章 電気装置 [3] …… 42 始動装置：機能①	
■第7章 電気装置 [4] …… 43 始動装置：機能② 始動装置：整備①	
■第7章 電気装置 [5] …… 44 始動装置：整備② 充電装置：機能	
■第7章 電気装置 [6] …… 45 充電装置：整備	
■第7章 電気装置 [7] …… 46 予熱装置	
■第8章 燃料及び潤滑剤／ 第9章 エンジンの点検・整備 [1] …… 47 燃料：軽油 排気の状態の点検	
■第9章 エンジンの点検・整備 [2] ／ 第10章 故障原因探究 …… 48 外部診断器（スキャン・ツール） 故障現象と関係すると思われる原因	

Ⅱ 2級シャシ

■第1章 総論 …… 49 走行性能	
■第2章 動力伝達装置 [1] …… 50 MTのクラッチ AT：トルク・コンバータ	
■第2章 動力伝達装置 [2] …… 51 AT：制御装置	
■第2章 動力伝達装置 [3] …… 52 AT：変速点 AT：安全装置①	
■第2章 動力伝達装置 [4] …… 53 AT：安全装置② CVT ディファレンシャル	
■第3章 アクスル及びサスペンション [1] …… 54 機能 乗り心地／エア・スプリング型サスペンション①	
■第3章 アクスル及びサスペンション [2] …… 55 乗り心地／エア・スプリング型サスペンション② 電子制御式エア・サスペンション	
■第4章 ステアリング装置 [1] …… 56 油圧式パワー・ステアリング①	
■第4章 ステアリング装置 [2] …… 57 油圧式パワー・ステアリング② 電動式パワー・ステアリング	
■第5章 ホイール及びタイヤ [1] …… 58 ホイール及びタイヤ	
■第5章 ホイール及びタイヤ [2] …… 59 整備 整備：大型トラック・バスの車輪の取り扱い	
■第6章 ホイール・アライメント [1] …… 60 ホイール・アライメント①	
■第6章 ホイール・アライメント [2] …… 61 ホイール・アライメント②	
■第7章 ブレーキ装置 [1] …… 62 エア・油圧式ブレーキ	
■第7章 ブレーキ装置 [2] …… 63 フル・エア式ブレーキ	
■第7章 ブレーキ装置 [3] …… 64 補助ブレーキ 整備	

目次

- 第8章 フレーム及びボデー …………… 65
概要／構造・機能／整備
- 第9章 電気装置 [1] …………… 66
計器
- 第9章 電気装置 [2] …………… 67
警報装置①
- 第9章 電気装置 [3] …………… 68
警報装置②
- 第9章 電気装置 [4] …………… 69
外部診断機（スキャン・ツール）
空気調和装置：概要／構造・機能①
- 第9章 電気装置 [5] …………… 70
空気調和装置：概要／構造・機能②
- 第9章 電気装置 [6] …………… 71
空気調和装置：整備
- 第9章 電気装置 [7] …………… 72
電気装置の配線：CAN 通信①
- 第9章 電気装置 [8] …………… 73
電気装置の配線：CAN 通信②
安全装置及び付属装置：SRS エア・バッグ
- 第9章 電気装置 [9] …………… 74
安全装置及び付属装置：シート・ベルト
安全装置及び付属装置：SRS エア・バッグの整備
- 第10章 潤滑及び潤滑剤／
第11章 保安基準適合性確保の点検 …………… 75
潤滑剤
ワイヤハーネス及びコネクタの点検
- 道路運送車両の保安基準 [1] …………… 78
安定性
最小回転半径
燃料装置
突入防止装置
- 道路運送車両の保安基準 [2] …………… 79
非常口
ばい煙、悪臭のあるガス、有害なガス等の発散防止装置
灯火関係①
- 道路運送車両の保安基準 [3] …………… 80
灯火関係②
自動運行装置
運行記録計
- メモ …………… 81

法令

- 道路運送車両法 [1] …………… 76
自動車の種別
移転登録
使用者の点検及び整備の義務
点検整備記録簿
特定整備の定義
- 道路運送車両法 [2] …………… 77
予備検査
自動車特定整備事業
特定整備事業者の義務
特定整備記録簿

第6章 基礎的な原理・法則 [3]	氏名	正解 / 5
-------------------	----	--------

■仕事とエネルギー (基礎工学 P76・77)

【1】自動車が90km/hの一定速度で走行しているときの駆動力が800Nだった。このときの出力は何kWか。
[H31.3]

☐	式	答
		kW

【2】自動車が72km/hの一定速度で走行しているときの駆動力が500Nだった。このときの出力は何kWか。
[R2.10]

☐	式	答
		kW

【3】自動車が54km/hの一定速度で走行しているときの駆動力が300Nだった。このときの出力は何kWか。
[R4.3]

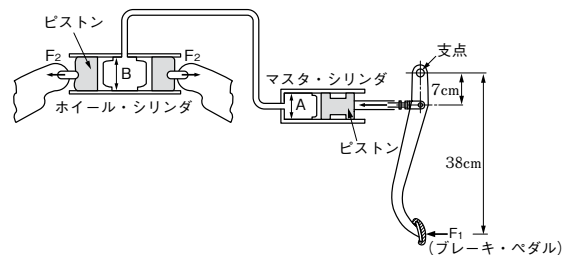
☐	式	答
		kW

【4】自動車が36km/hの一定速度で走行しているときの駆動力が650Nだった。このときの出力は何kWか。
[R5.10]

☐	式	答
		kW

■圧力① (基礎工学 旧 P83～85 P77～79)

【5】図に示す油圧式ブレーキの油圧回路において、マスタ・シリンダの内径Aが10mm、ホイール・シリンダの内径Bが35mmの場合、ブレーキ・ペダルを矢印の方向に70Nの力(F_1)で押したとき、ホイール・シリンダのピストンにかかる力(F_2)は何Nか。[R6.3]



☐	式	答
		N

第1章 総論 [2]

氏名

正解

/12

■バルブ・タイミング② (教科書外)

【1】着火順序1-5-3-6-2-4の4サイクル直列6シリンダ・エンジンの第2シリンダが吸入行程下死点にあり、この位置からクランクシャフトを回転方向に540°回転させたとき、圧縮行程上死点にあるのは第()シリンダである。その状態から第1シリンダのバルブをオーバーラップの上死点状態にするためには、クランクシャフトを回転方向に()°回転させる必要がある。[H30.10]

<input type="checkbox"/>	第	シリンダ	°
--------------------------	---	------	---

【2】着火順序1-5-3-6-2-4の4サイクル直列6シリンダ・エンジンの第6シリンダが吸入行程下死点にあり、この位置からクランクシャフトを回転方向に420°回転させたとき、圧縮行程上死点にあるのは第()シリンダである。その状態から第1シリンダのバルブをオーバーラップの上死点状態にするためには、クランクシャフトを回転方向に()°回転させる必要がある。[H31.3]

<input type="checkbox"/>	第	シリンダ	°
--------------------------	---	------	---

【3】着火順序1-5-3-6-2-4の4サイクル直列6シリンダ・エンジンの第2シリンダが吸入行程の下死点にあり、この位置からクランクシャフトを回転方向に540°回転させたとき、圧縮行程上死点にあるのは第()シリンダである。その状態から第3シリンダのバルブをオーバーラップの上死点状態にするためには、クランクシャフトを回転方向に()°回転させる必要がある。[R2.10]

<input type="checkbox"/>	第	シリンダ	°
--------------------------	---	------	---

【4】着火順序1-5-3-6-2-4の4サイクル直列6シリンダ・エンジンの第4シリンダが燃焼行程下死点にあり、この位置からクランクシャフトを回転方向に420°回転させたとき、オーバーラップの上死点にあるのは第()シリンダである。その状態から第3シリンダのバルブを圧縮行程上死点状態にするためには、クランクシャフトを回転方向に()°回転させる必要がある。[R4.3]

<input type="checkbox"/>	第	シリンダ	°
--------------------------	---	------	---

【5】着火順序1-5-3-6-2-4の4サイクル直列6シリンダ・エンジンの第3シリンダがオーバーラップの上死点にあり、この位置からクランクシャフトを回転方向に600°回転させたとき、圧縮行程上死点にあるのは第()シリンダである。その状態から第6シリンダのバルブを吸入行程の下死点状態にするためには、クランクシャフトを回転方向に()°回転させる必要がある。[R1.10]

<input type="checkbox"/>	第	シリンダ	°
--------------------------	---	------	---

【6】着火順序1-5-3-6-2-4の4サイクル直列6シリンダ・エンジンの第5シリンダが圧縮行程上死点にあり、この位置からクランクシャフトを回転方向に300°回転させたとき、燃焼行程下死点にあるのは第()シリンダである。その状態から第6シリンダのバルブを排気行程上死点状態にするためにはクランクシャフトを回転方向に()°回転させる必要がある。[R6.3]

<input type="checkbox"/>	第	シリンダ	°
--------------------------	---	------	---

第1章 総論 [3]

氏名

正解

/16

■性能 (2級ジーゼル P9～11)

【1】ジーゼル・エンジンの性能などに用いられている用語に関する記述として、適切なものには○を、不適切なものには×を記入しなさい。

- 1. 図示熱効率とは、エンジンにより動力に変えられた熱量と、エンジンに与えられた燃料の総熱量との割合である。[R3.10/R2.3/H30.10]
- 2. 図示熱効率とは、シリンダ内の作動ガスがピストンに与えた仕事を熱量に換算したものと、供給した熱量との割合をいう。[R6.3/R5.3/R4.10/R3.3/R1.10]
- 3. 正味熱効率とは、シリンダ内で作動ガスがピストンに与えた仕事を熱量に換算したものと、供給した熱量との割合である。[R3.10/R2.3/H30.10]
- 4. 図示熱効率とは、シリンダ内の作動ガスがピストンに与えた仕事を熱量に換算したものと、供給した熱量との割合であり、理論熱効率よりその値は低い。[R5.10]
- 5. 正味仕事率とは、エンジンのクランクシャフトから実際に得られる動力をいう。
[R6.3/R5.3/R4.10/R3.3/R1.10]
- 6. 空気過剰率とは、実際に吸入した空気の種類と、噴射された燃料を完全燃焼させる理論空気質量との割合である。[R5.3/R3.10/R3.3/R2.3/R1.10/H30.10]
- 7. ジーゼル・エンジンの空気過剰率は、低速で負荷が小さく噴射量が少なきときは1.2～1.4程度で、負荷が大きき最大噴射量に達したときは2.5以上である。[R6.3/R4.10]
- 8. ジーゼル・エンジンの空気過剰率は、全負荷 (最大噴射量) 時において1.2～1.4程度で、負荷が小さい (噴射量が少なき) ときは2.5以上である。[R5.10]
- 9. グロス軸出力とは、エンジンの運転に必要な付属装置だけを装着してエンジン試験台で測定した軸出力である。[R6.3/R4.10]
- 10. ネット軸出力とは、エンジンの運転に必要な付属装置だけを装着してエンジン試験台で測定した軸出力である。[R5.3/R3.10/R3.3/R2.3/R1.10/H30.10]
- 11. 体積効率と充填効率は、平地ではほとんど同じであるが、高山などの気圧の低い場所では差を生じる。[R5.10]
- 12. 機械損失は、ピストンなどの摩擦損失やウォータ・ポンプなどの補機駆動の損失からなっており、冷却水の温度の影響は受けない。[R5.10]

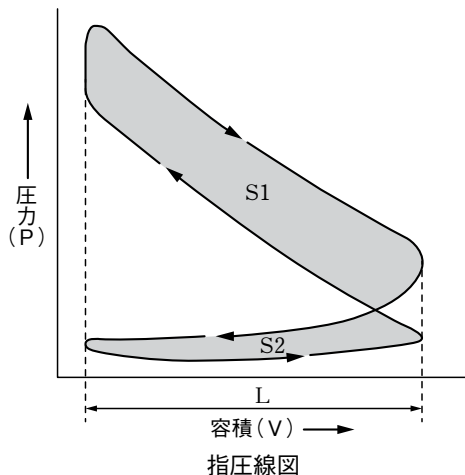
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12

【2】図に示す指圧線図を参考に、図示平均有効圧力に関する次の文章の () に当てはまる語句を記入しなさい。

- 1. 図示平均有効圧力を求めるには、指圧線図をもとに図中の面積 (S1) 及び (S2) を測定し、(イ) から (ロ) を (ハ) ものをシリンダの行程容積を表す指圧線図上のストローク (L) で (ニ) 求める。

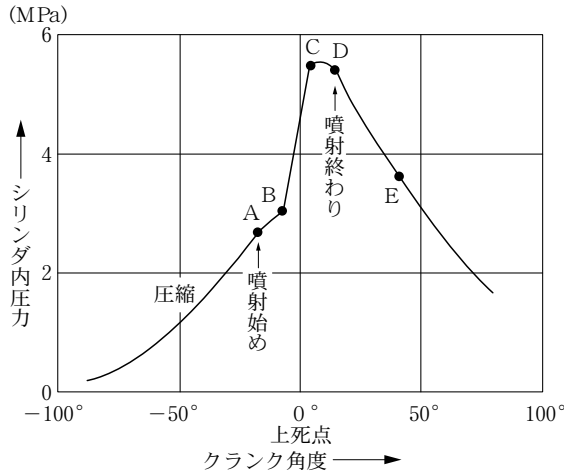
[R4.3/R2.10/H31.3]

1	イ:	ロ:
	ハ:	ニ:



■ 燃焼過程 (2級ジーゼル P12)

【1】 図はジーゼル・エンジンの燃焼状態を示したものである。燃焼状態に関する記述として、適切なものには○を、不適切なものには×を記入しなさい。



- 1. 図のAからBの間が火炎伝播期間で、シリンダ内の混合気が着火温度に近付きつつある期間である。 [追加]
- 2. 図のAからBの間が直接燃焼期間で、シリンダ内の混合気が着火温度に近付きつつある期間である。 [R4.3]
- 3. 図のAからBの間での噴射量が規定より多くなった場合にジーゼル・ノックは発生しやすい。 [追加]
- 4. 図のBからCの間が直接燃焼期間で、このときの圧力上昇は、AからBの間に噴射された燃料の量、霧化状態などに関係する。 [追加]
- 5. 図のBからCの間が着火遅れ期間で、このときの圧力上昇は、AからBの間に噴射された燃料の量、霧化状態などに関係する。 [R4.3]
- 6. 図のCからDの間が着火遅れ期間で、Cを過ぎても燃料は噴射されているが、BからCの間で生じた火炎のため燃焼が行われる。 [追加]
- 7. 図のCからDの間が火炎伝播期間で、Cを過ぎても燃料は噴射されているが、BからCの間で生じた火炎のため燃焼が行われる。 [R4.3]
- 8. 図のDからEの間までが後期燃焼期間で、Dで燃料の噴射は終わり、燃焼ガスは膨張するが、それまでに完全に燃焼しきれなかった燃料は、膨張の期間中に燃焼する。 [R4.3]

1	2	3	4	5	6	7	8

■潤滑剤 (2級シャシ P223～226)

【1】潤滑剤に関する記述として、適切なものには○を、不適切なものには×を記入しなさい。

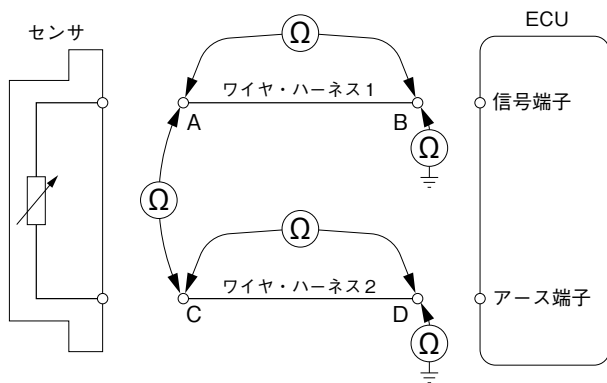
- 1. ギヤ・オイルは、油性の小さいものを使用して金属に対しての吸着性を形成させ、かつ、できるだけ粘度の高いものを使用して、摩擦を減らすことが重要である。[H30.10]
- 2. ギヤ・オイルは、油性の小さいものを使用して強い油膜を形成させ、かつ、できるだけ粘度の高いものを使用して、摩擦を減らすことが重要である。[R6.3/R4.10/R3.3]
- 3. グリースは、高温になるに従い軟化するので、高温箇所では比較的ちょう度の数値が大きい機械的安定性の高いものが必要である。[R6.3/R4.10/R3.3/R1.10/H30.10]
- 4. ATFの性状には、トルク・コンバータ内では空気が混入して泡が立ちやすいため優れた消泡性が必要である。[R1.10]
- 5. PSFの性状で低温流動性の良否は、ステアリング・ホイールの操作性に大きく影響するだけでなく、オイル・ポンプの吸入によるキャビテーション音の発生にも影響する。
[R6.3/R4.10/R3.3/R1.10/H30.10]
- 6. ビスカス・カップリングに用いられるジメチル・シリコン・オイルには、大きいトルクを伝達するためにオイル粘度が高いことが要求される。[R1.10]
- 7. ビスカス・カップリングに用いられるジメチル・シリコン・オイルは、他のオイルと比較して温度変化による粘度変化が大きいため、オイル粘度が高いことが要求される。[R6.3/R4.10/R3.3/H30.10]

1	2	3	4	5	6	7

■ワイヤハーネス及びコネクタの点検 (2級シャシ P241)

【2】図に示す抵抗測定を行ったセンサ回路における、ワイヤ・ハーネスの故障診断に関する次の文章の () に当てはまるものを以下から選び、記号を記入しなさい。

「AとB間の抵抗値が0Ω」、「Bとアース間の抵抗値が∞Ω」、「AとC間の抵抗値が0Ω」、「CとD間の抵抗値が0Ω」、「Dとアース間の抵抗値が∞Ω」の場合の診断結果としては、() が考えられる。なお、ECUのコネクタとセンサのコネクタは外しているものとする。[R6.3]



- A. 各ワイヤ・ハーネスに不具合がないこと
- B. ワイヤ・ハーネス1とボデー・アース間の短絡
- C. ワイヤ・ハーネス2とボデー・アース間の短絡
- D. ワイヤ・ハーネス1とワイヤ・ハーネス2間の短絡

1	
---	--

道路運送車両法 [1]	氏名	正解 /12
-------------	----	--------

■ 自動車の種別 (法令教本 P19 ~ 21)

【1】「道路運送車両法」及び「道路運送車両法施行規則」に照らし、自動車の種別に関する次の文章の () に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

1. 長さ4.69m、幅1.69m、高さ1.99mで原動機の総排気量が2.48Lのジーゼル車の該当する自動車の種別は () 自動車である。[R6.3/R4.10]

1	自動車
---	-----

■ 移転登録 (法令教本 P32)

【2】「道路運送車両法」に照らし、次の文章の () に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

1. 新規登録を受けた自動車について所有者の変更があったときは、新所有者は、その事由があった日から (イ) 日以内に、国土交通大臣の行う (ロ) の申請をしなければならない。

[R6.3/R4.10/R3.3/R1.10]

1	イ:	日以内	ロ:
---	----	-----	----

■ 使用者の点検及び整備の義務 (法令教本 P40・41)

【3】「道路運送車両法」に照らし、点検及び整備の義務に関する次の文章の () に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

1. 自動車の (イ) は、自動車の点検をし、及び必要に応じて (ロ) をすることにより、当該自動車を (ハ) に適合するように維持しなければならない。[R2.3/H30.10]

1	イ:	ロ:	ハ:
---	----	----	----

■ 点検整備記録簿 (法令教本 P68 ~ 70)

【4】「道路運送車両法」及び「自動車点検基準」に照らし、次の文章の () に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

1. 乗車定員11人の自家用自動車の場合、点検整備記録簿の保存期間は () である。[R5.10/R4.3]

1	
---	--

■ 特定整備の定義 (法令教本 P71 ~ 73)

【5】「道路運送車両法」及び「道路運送車両法施行規則」に照らし、四輪自動車の特定整備に該当するものには○を、該当しないものには×を記入しなさい。

- 1. プロペラ・シャフトまたはディファレンシャルを取り外して行う自動車の整備または改造。[追加]
- 2. 緩衝装置のコイルばねを取り外して行う自動車の整備。[追加]
- 3. 電気装置のスタータを取り外して行う自動車の整備。[追加]
- 4. 制動装置のブレーキ・パイプを取り外して行う自動車の整備。[追加]
- 5. ショック・アブソーバを取り外して行う自動車の整備は、特定整備に該当する。[H30.10改]

1	2	3	4	5

道路運送車両法 [2]	氏名	正解	/12
-------------	----	----	-----

■ 予備検査 (法令教本 P91)

【1】「道路運送車両法」に照らし、自動車予備検査証に関する次の文章の () に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

- ☑1. 自動車予備検査証の有効期間は、() とする。[R2.10]

1	
---	--

■ 自動車特定整備事業 (法令教本 P103 ~ 107)

【2】「道路運送車両法」及び「道路運送車両法施行規則」に照らし、自動車特定整備事業に関する記述として、適切なものには○を、不適切なものには×を記入しなさい。

- ☑1. 小型自動車特定整備事業では、幅1.8m、最高速度が100km/hの四輪自動車の分解整備を行うことはできない。[H30.10改]

- ☑2. 小型自動車特定整備事業では、長さ4.99m、幅1.69m、高さ1.99m、最高速度が100km/hの四輪自動車の特定整備を行うことができる。[R2.3改]

1	2

【3】「道路運送車両法施行規則」に照らし、次の文章の(イ)と(ロ)に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

分解整備を行う事業場であって、従事する従業員(整備主任者を含む。)の数が(イ)人の自動車特定整備事業の認証を受けた事業場には、一級、二級又は三級の自動車整備士の技能検定に合格した者が(ロ)人以上であること。[R6.3/R5.3改]

1	イ:	人	2	ロ:	人
---	----	---	---	----	---

■ 特定整備事業者の義務 (法令教本 P116)

【4】「道路運送車両法」に照らし、自動車特定整備事業者の義務に関する次の文章の () に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

- ☑1. 自動車特定整備事業者は、特定整備を行う場合においては、当該自動車の特定整備に係る部分が () に適合するようにしなければならない。[R2.3改/H31.3]

1	
---	--

■ 特定整備記録簿 (法令教本 P117)

【5】「道路運送車両法」及び「道路運送車両法施行規則」に照らし、自動車特定整備事業者が特定整備を行った場合の、特定整備記録簿に関する記述として、適切なものには○を、不適切なものには×を記入しなさい。

- ☑1. 特定整備記録簿には、登録自動車にあっては車台番号を記載しなければならない。[R1.10改]
- ☑2. 特定整備記録簿には、特定整備の概要を記載しなければならない。[R1.10改]
- ☑3. 特定整備記録簿には、特定整備を開始した年月日を記載しなければならない。[R2.3改/H30.10改]
- ☑4. 特定整備記録簿には、特定整備を完了した年月日を記載しなければならない。[R1.10改]
- ☑5. 特定整備記録簿には、依頼者の氏名又は名称及び住所を記載しなければならない。[R1.10改]
- ☑6. 特定整備記録簿は、その記載の日から1年間保存しなければならない。[R2.3改/H30.10改]

1	2	3	4	5	6

道路運送車両の保安基準 [1]	氏名	正解 / 9
-----------------	----	--------

■ 安定性 (法令教本 P146 ~ 148)

【1】「道路運送車両の保安基準」及び「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示」に照らし、安定性に関する次の文章の () に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

- 1. 空車状態及び積車状態における(イ)にかかる荷重の総和が、それぞれ車両重量及び車両総重量の(ロ)以上であること。[R5.3/R3.10/R2.10改]
- 2. 空車状態において、自動車(二輪自動車及び被牽引自動車を除く。)を左側及び右側に、それぞれ()°まで傾けた場合に転覆しないこと。ただし、側車付二輪自動車、車両総重量が車両重量の1.2倍以下の自動車又は積車状態における車両の重心の高さが空車状態における車両の重心の高さ以下の自動車は除く。[R2.3/H30.10]

1	イ:	□:	%
2	。		

■ 最小回転半径 (法令教本 P148・149)

【2】「道路運送車両の保安基準」に照らし、次の文章の () に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

- 1. 自動車の最小回転半径は、最外側のわだちについて () 以下でなければならない。[R5.10/R4.3]

1		m
---	--	---

■ 燃料装置 (法令教本 P163・164)

【3】「道路運送車両の保安基準」及び「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示」に照らし、次の文章の () に当てはまる適切な語句を記入しなさい。

- 1. 燃料タンクの注入口及びガス抜口は、露出した電気端子及び電気開閉器から () 以上離れていること。[R3.10]

1		mm
---	--	----

■ 突入防止装置 (法令教本 P176)

【4】「道路運送車両の保安基準」及び「道路運送車両の保安基準の細目を定める告示」に照らし、貨物の運送の用に供する自動車であって車両総重量が3.5tを超えるものに備える突入防止装置の基準に関する記述として、, 適切なものには○を、不適切なものには×を記入しなさい。

- 1. 振動、衝撃等によりゆりみ等を生じないように確実に取り付けられていること。[R5.10]
- 2. 積車状態において、その下縁の高さが地上550mm以下となるように取り付けられていること。[R5.10]
- 3. その平面部の最外縁が後軸の車輪の最外側の内側100mmまでの間にあるよう取り付けられていること。[R5.10]
- 4. その平面部が車両中心面に直交する鉛直面上で車両中心面に対して対称の位置に取り付けられていること。[R5.10]

1	2	3	4